

「インターネット利用に関する意識調査」の結果について

令和7年10月

1. 調査の目的

児童生徒のスマートフォンや携帯電話・タブレット等によるインターネット利用に係るトラブルや健全な生活習慣、価値観への悪影響を防ぐために、インターネット利用に関する実態を調査し、今後の安全対策及び情報モラル教育や啓発等への参考資料に活用する。

2. 調査対象

- ①市内小学校3～6年生の児童とその保護者
- ②市内中学校1～3年生の生徒とその保護者

3. 調査期間

児童・生徒 6月19日（木）～7月18日（金）
保護者 6月19日（木）～7月31日（木）

4. 調査方法

Google フォーム（無記名）

5. 調査回収結果

①小学生（3～6年生）	760名／937名	回答率 81.1%	（前回 97.6%）
②中学生	401名／804名	回答率 49.9%	（前回 88.2%）
③保護者（小学生）	422名／937名	回答率 45.0%	（前回 72.7%）
（中学生）	378名／804名	回答率 47.0%	（前回 65.0%）

1. 調査結果及び考察（児童・生徒） * 児童=小学生、生徒=中学生

(1) スマートフォン（携帯電話を含む以下、スマホとする）やタブレットの所持率（前回調査との比較）

(回答数：児童 760 件/所持 419 件、生徒 401 件/所持 301 件)

スマホ等の所持については、回答のあった児童の 50 %以上、生徒の 70 %以上が専用で所持している。前回（令和 5 年度）調査と比較し、児童生徒ともに所持率はほぼ変化なしとなっている。

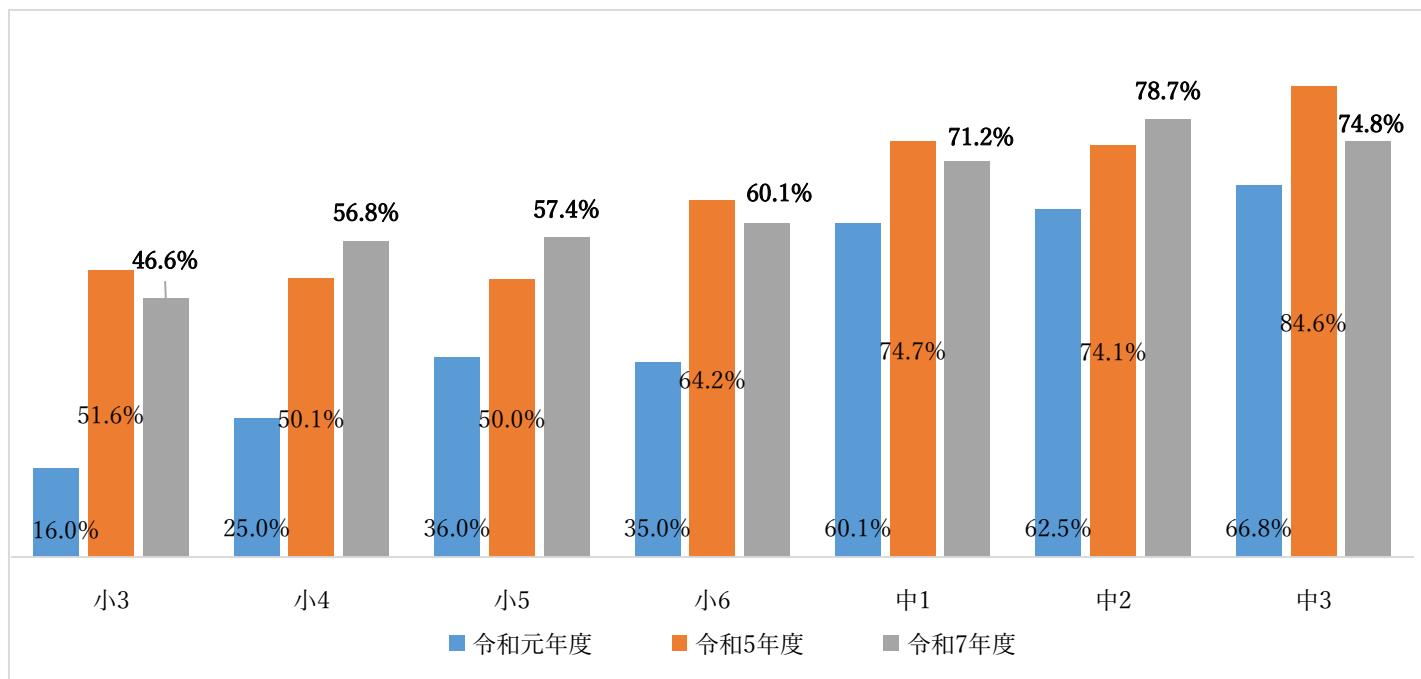


表 1 所持率

(2) スマホ等を持っていない児童・生徒を対象に「家族のものを借用することがあるか」

(持っていないの回答数：児童 341 件、生徒 100 件)

自分専用のスマホ等は持っていないが、児童の 70 %以上、生徒の 60 %近くが家族のものを借用し、家庭内でスマホ等を利用している。

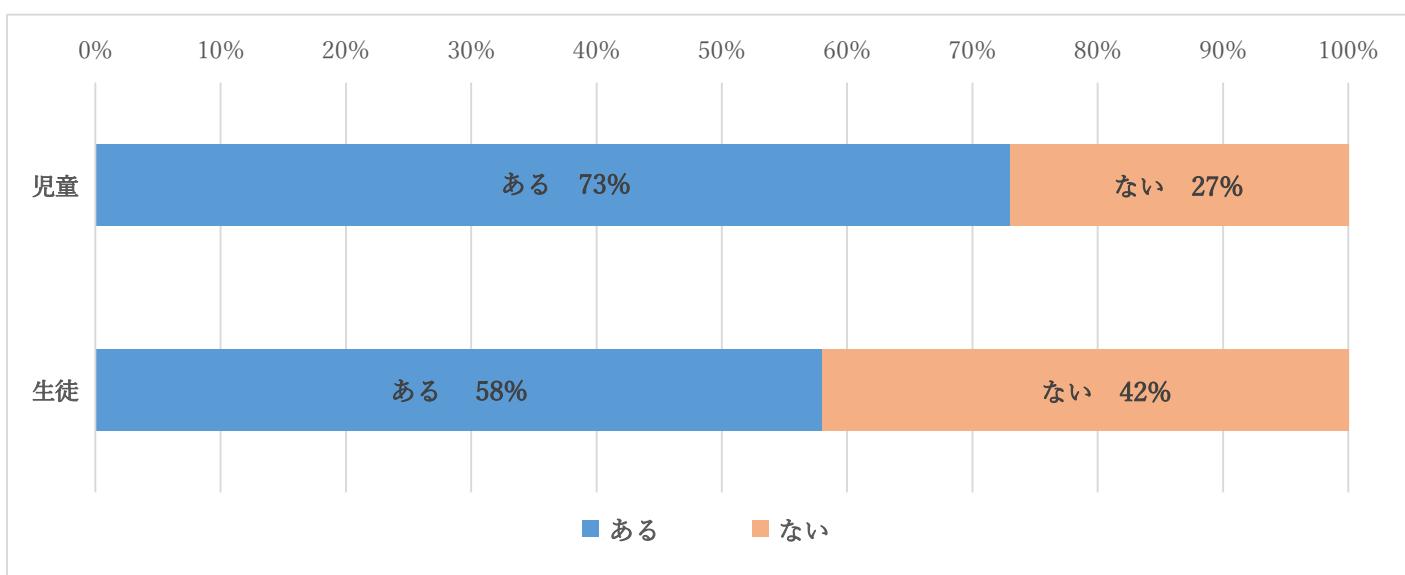


表 2 家族からの借用率

(3) スマホ等を所持した時期

(回答数：児童 419 件、生徒 301 件)

今回より、スマホ等を所持した時期の選択肢に「入学前」を付け加えた。結果、児童では、入学前から低学年で、すでに専用のスマホ等を多く所持していることがわかった。生徒では、小学校を卒業する 6 年生・中学校への進級する 1 年生の時期に所持が上昇し、前回の調査（令和 5 年）と変化はなかった。

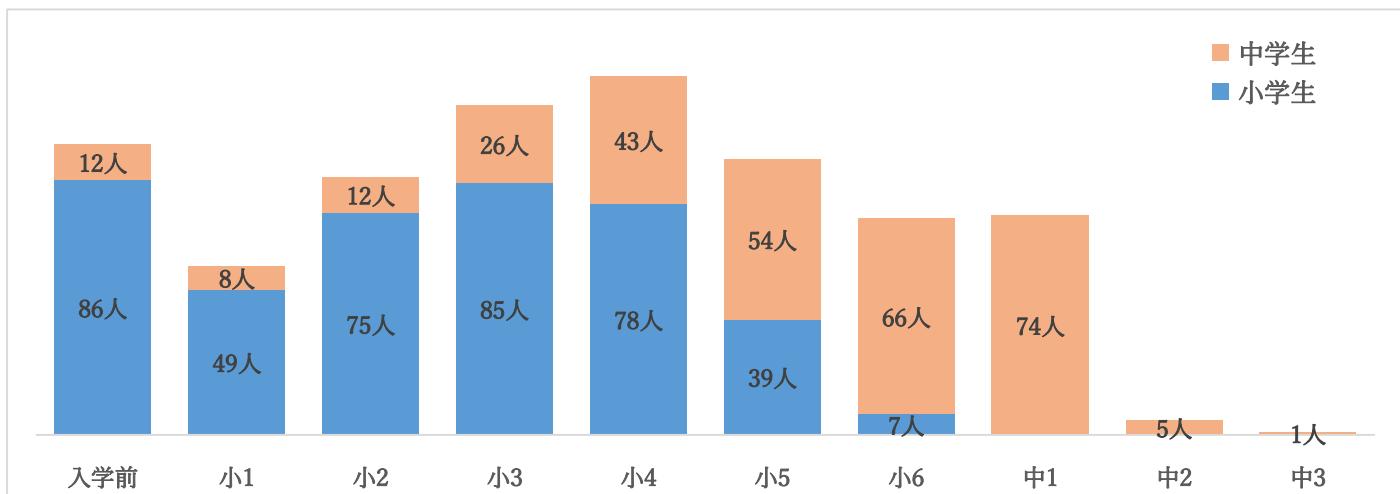


表3 スマホ等を所持した時期

(4) 所持している機種 (複数回答)

(回答数：児童 419 件、生徒 301 件)

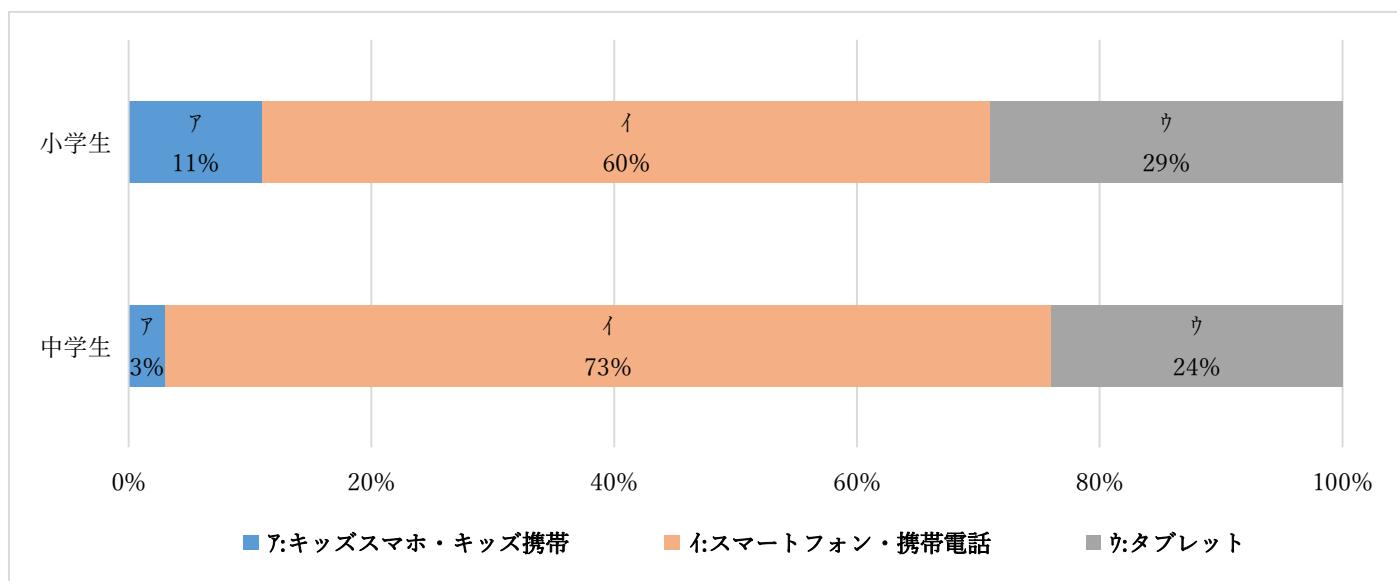


表4 所持している機種

(5) 使用内容とその平均利用時間 (複数回答)

(回答数：児童 668 件、生徒 359 件)

個々の使用内容での利用時間は、児童は概ね 1 時間未満の回答だが、「④音楽・動画視聴」、「⑥ゲーム」では、10 %以上が 5 時間以上という回答であり、前回調査と同様の結果だった。生徒では、概ね 1 時間未満の回答だが、「④音楽・動画視聴」、「⑥ゲーム」、「⑦LINE などの SNS」で 5 時間以上が 7 %以上だった。こちらも前回調査同様の結果となった。

個々の内容での利用時間の調査では、児童・生徒ひとりあたりの 1 日の利用時間が導けないことから、次回は 1 日の利用時間を調査項目に加えることとする。

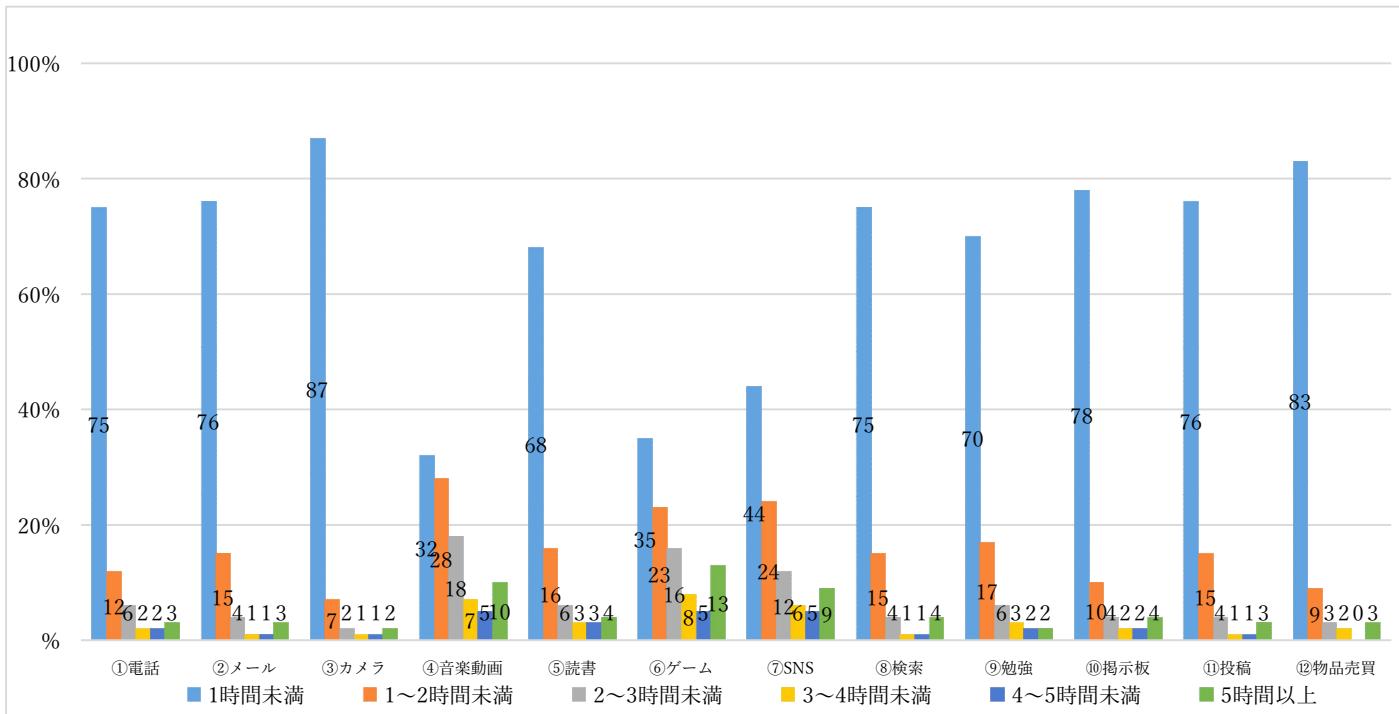


表 5-1 使用内容と時間（児童）

- ①電話 ②メール ③カメラ ④音楽・動画視聴 ⑤小説・マンガ・雑誌などの読書 ⑥ゲーム ⑦LINEなどのSNS
- ⑧知りたい情報の検索 ⑨勉強用サイト ⑩掲示板の閲覧や書き込み ⑪自分の写真や動画、自分の行動や出来事などの投稿
- ⑫物品の売買

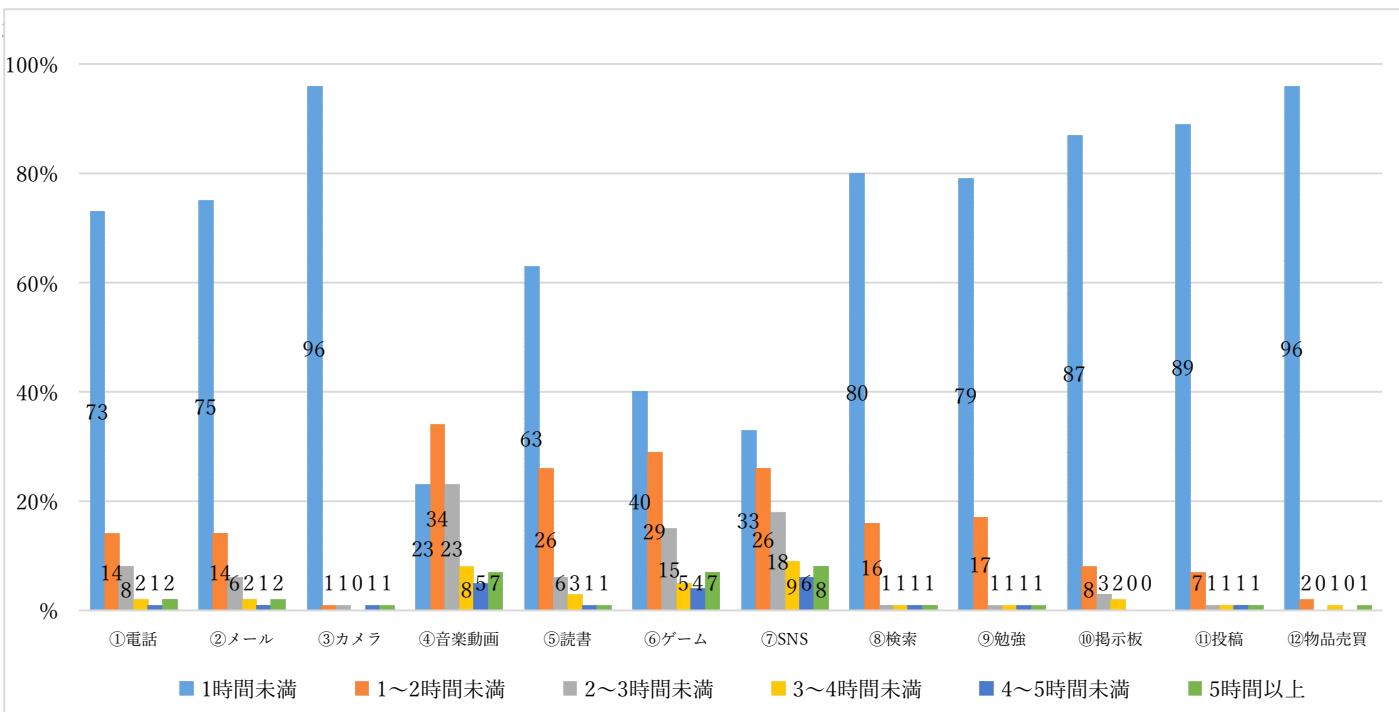


表 5-2 使用内容と時間（生徒）

- ①電話 ②メール ③カメラ ④音楽・動画視聴 ⑤小説・マンガ・雑誌などの読書 ⑥ゲーム ⑦LINEなどのSNS
- ⑧知りたい情報の検索 ⑨勉強用サイト ⑩掲示板の閲覧や書き込み ⑪自分の写真や動画、自分の行動や出来事などの投稿
- ⑫物品の売買

(6) 利用アプリ (複数回答)

(複数回答 児童 660 件、生徒 356 件)

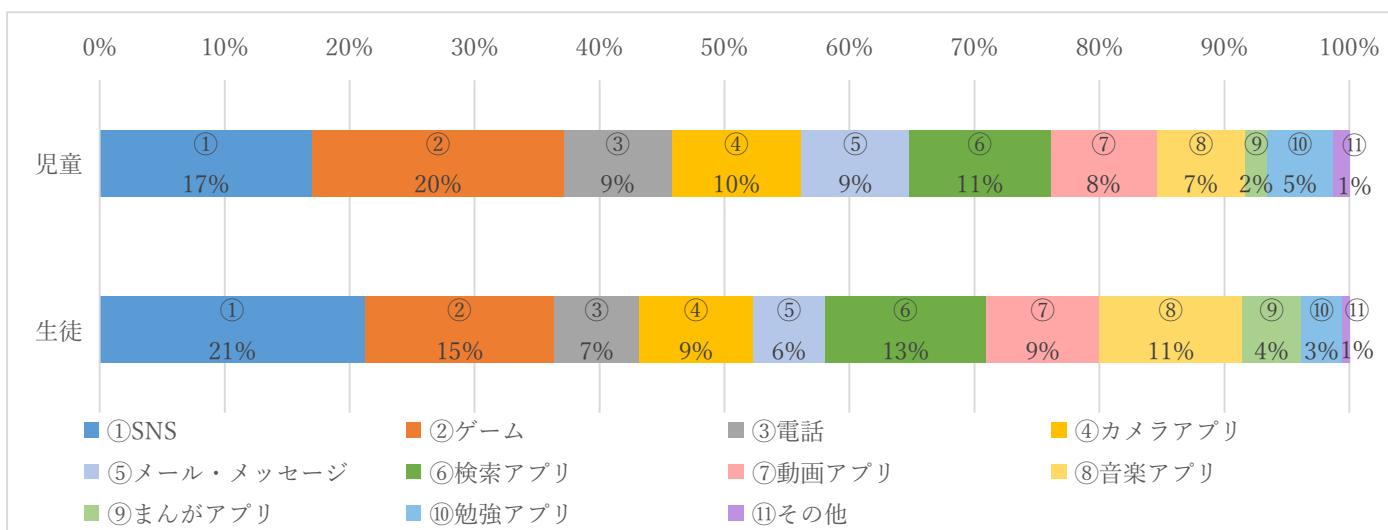


表6 利用アプリ

児童、生徒ともに「新しい情報が得られる」「調べたり学ぶことができる」や、「暇つぶし」「気分転換になる」などの回答が多かった。「その他」では、生徒では「ネッ友とのコミュニケーション」や「ネット上の交流」や「現実から目を背けて楽しいところだけ見ていられる」、「現実逃避をしていることを実感できる」という回答が見受けられた。

※ネッ友…インターネットやオンラインゲームなどのデジタルメディアを通じて知り合った友人

(7) 学校に行く日と休みの日の利用時間 (複数回答)

(複数回答 児童 616 件、生徒 350 件)

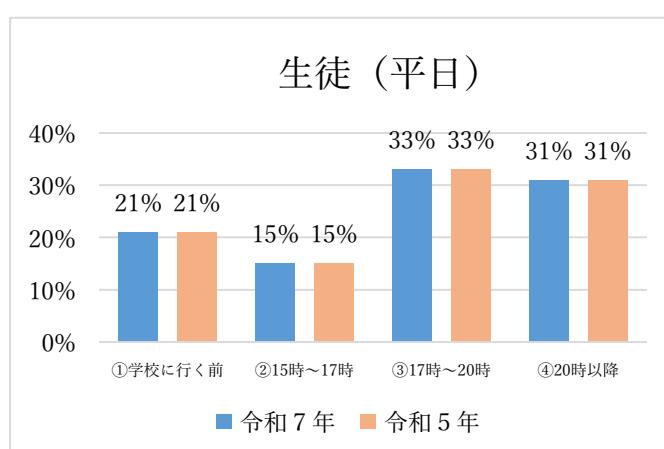
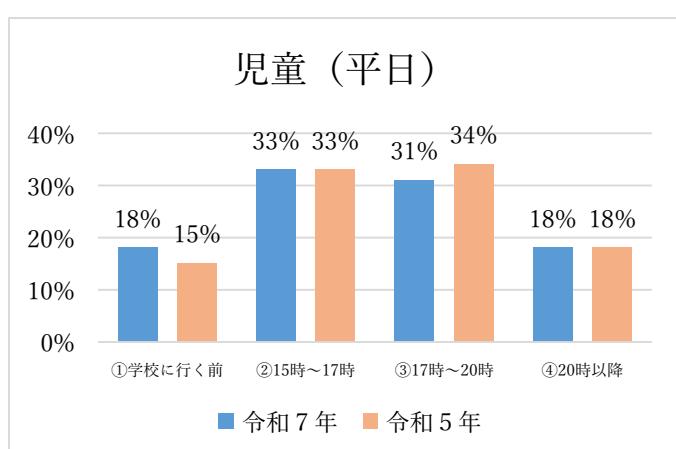


表7-1 学校に行く日の利用時間 (児童・生徒)

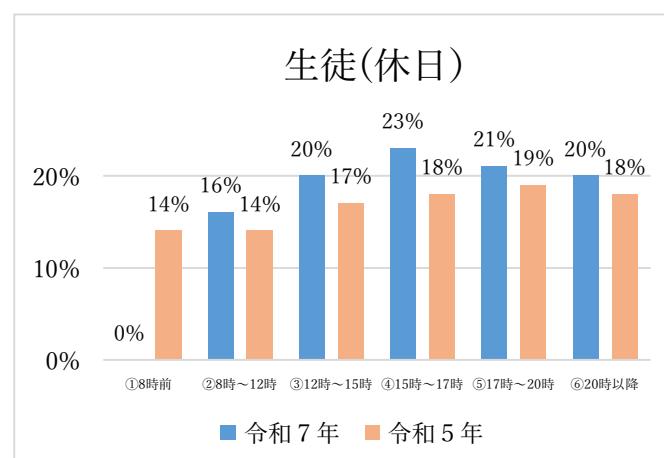
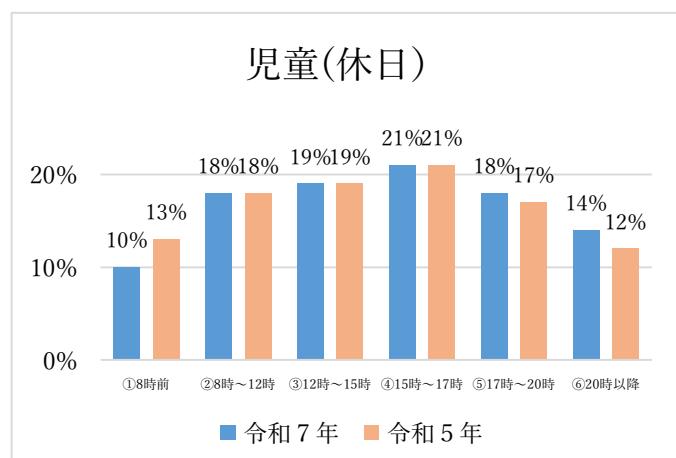


表7-2 学校が休みの利用時間 (児童・生徒)

児童の平日利用は、15時から20時までが64%となり、20時以降も18%が利用していることがわかった。休日利用は、朝起きてから徐々に利用が多くなり、18時をピークに下がっていた。

生徒の平日利用では、学校に行く前の時間帯で21%が利用し、学校から帰宅後の17時から20時以降までの時間帯で64%が利用している。休日利用は、児童同様18時をピークに下がっていた。

児童・生徒ともに利用時間帯の割合としては前回と比較し、大きな変化は見られなかった。

(8) スマホ等を使う時に家族と決めたルールの有無と内容

(回答数：児童 668 件、生徒 359 件)

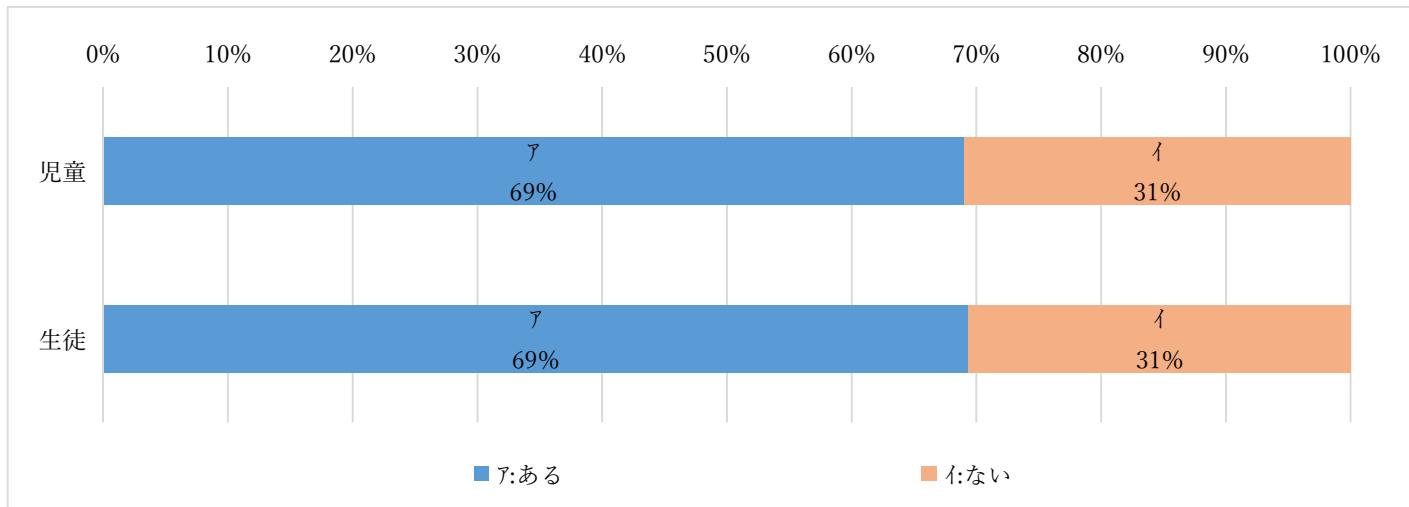


表8 ルールの有無

家族とのルールについては、児童・生徒ともに約70%があると回答している。主なものは「利用場所や利用時間」、「個人情報を流さない」、「課金しない」、「怪しいサイトは開かない」、「知らない人とは連絡を取らない」などが上げられていた。前回と比較して「SNSへ投稿しない」や「顔出しあわない」などのSNS関連のルールが生徒で増加している。

(9) 決めたルールを守っているか

(回答数 児童 461 件、生徒 249 件)

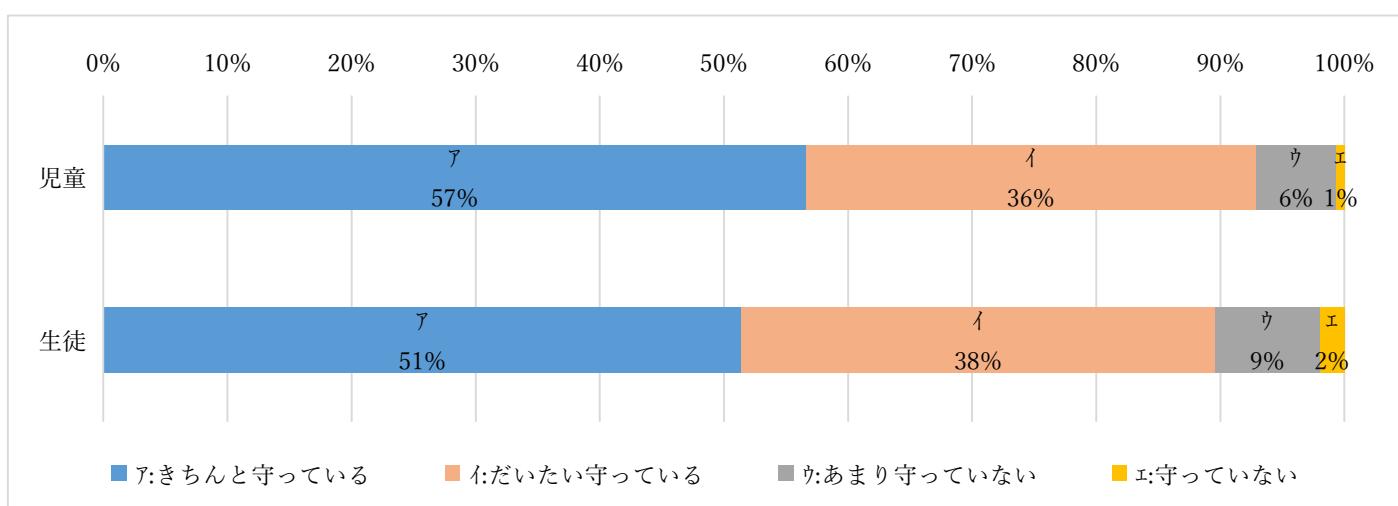


表9 ルールを守っているか

児童・生徒ともに、90%が「守っている」と回答している。子ども自身も保護者との約束や注意事項を守ることを意識しながら使用している。

(10) トラブルの有無とその相談者（複数回答）

(複数回答数：トラブル有児童 108／668 件、生徒 75／359 件)

児童・生徒ともに80%以上が「⑧トラブルにあったことがない」という回答だった。

トラブルの内容の割合は、児童・生徒ともに前回調査と同様の結果だったが、「その他」では、「知らない番号から電話があった」「児童ポルノ」「アカウント乗っ取り」「ウイルス感染」などの回答があった。

トラブルにあって相談した相手は、児童・生徒ともに「親」、「友だち」、「親以外の家族」の順となっているが、「誰にも相談できない」は児童は9%、生徒は14%にものぼった。また、トラブルにあったことはないが、もしトラブルにあった時の相談者は、児童・生徒ともに「親」、「友だち」、「親以外の家族」の順で回答であり、トラブルにあった時には、すぐに親や家族を頼りたいということがわかった。

※チェーンLINE、メール・・・受け取った人に誰かに転送させることを目的とした迷惑メール

児童

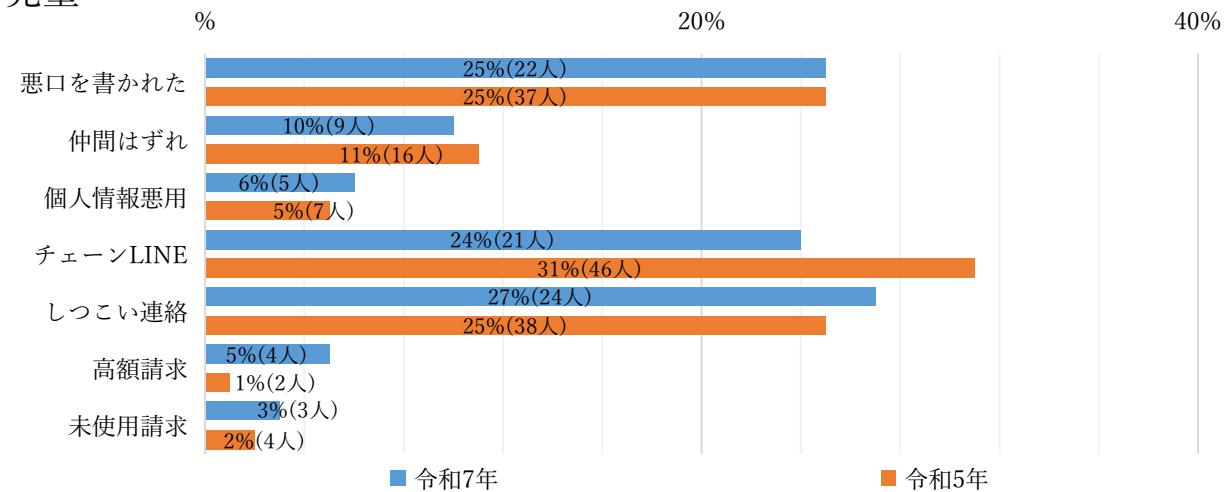


表 10-1 児童のトラブル内容と件数の比較

生徒

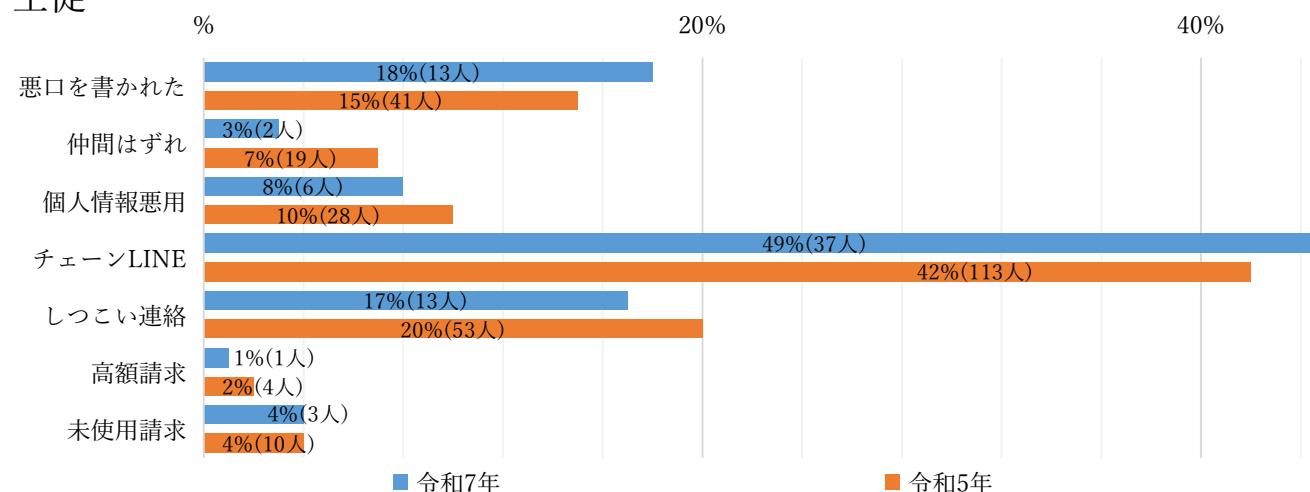


表 10-2 生徒のトラブル内容と件数の比較

(11) インターネットの危険性についての情報入手方法（複数回答）

（回答数：児童 760 件 生徒 401 件）

児童・生徒とともに、「①学校で教えてもらった」に次いで「②家族から教えてもらった」の回答が多く、あわせて 70 %を越える結果となった。

しかし「⑥学んだり説明を受けたことはない」という回答が、児童では 5 %、生徒では 1 %あり、子どもたちを巻き込むさまざまな事件やトラブルが増えていることから、利用目的に合わせた説明や注意喚起をより強化していく必要がある。

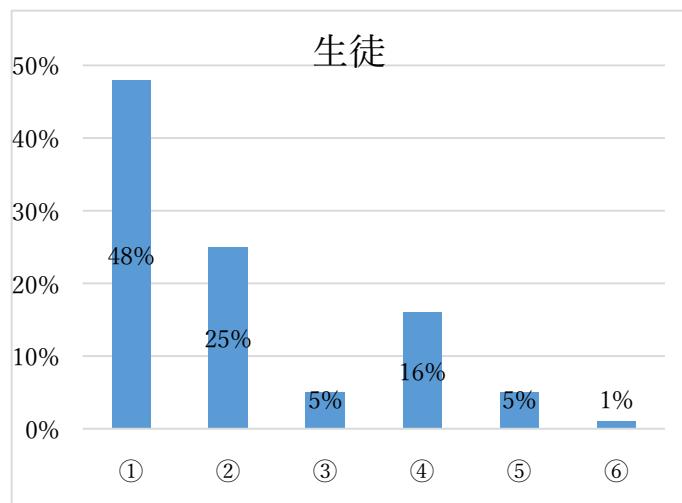
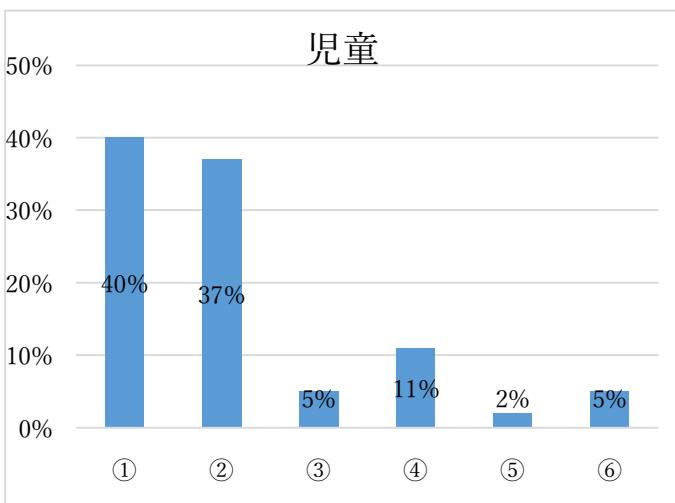


表 11 インターネットの危険性についての情報取得方法（児童・生徒）

- ①学校で教えてもらった ②家族から教えてもらった ③友だちから教えてもらった ④テレビや本、パンフレットなどで知った
- ⑤スマホ販売店から説明してもらった ⑥学んだり説明を受けたことはない

(12) スマホ以外でのネット利用機器と利用時間（複数回答）

（回答数：児童 1,026 件 生徒 548 件）

児童・生徒ともにゲーム機でのネット利用が多くなっている。利用時間は児童では「2時間未満」が多く、「5時間以上」との回答も 8 %となっている。生徒では「3時間未満」が多く、「5時間以上」との回答は 5 %だった。

児童・生徒ともに、音楽機器や自宅のパソコンでのネット利用は約 20 %で利用時間は「1時間未満」が多いが、「5時間以上」との回答もあった。

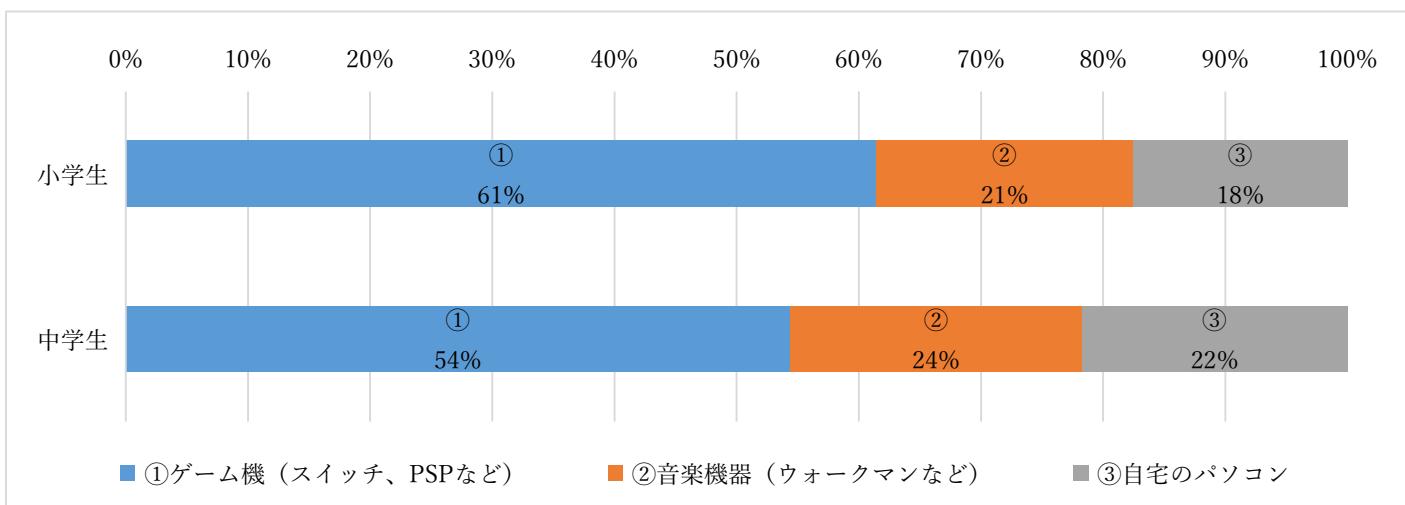


表 12-1 スマホ以外でのネット利用

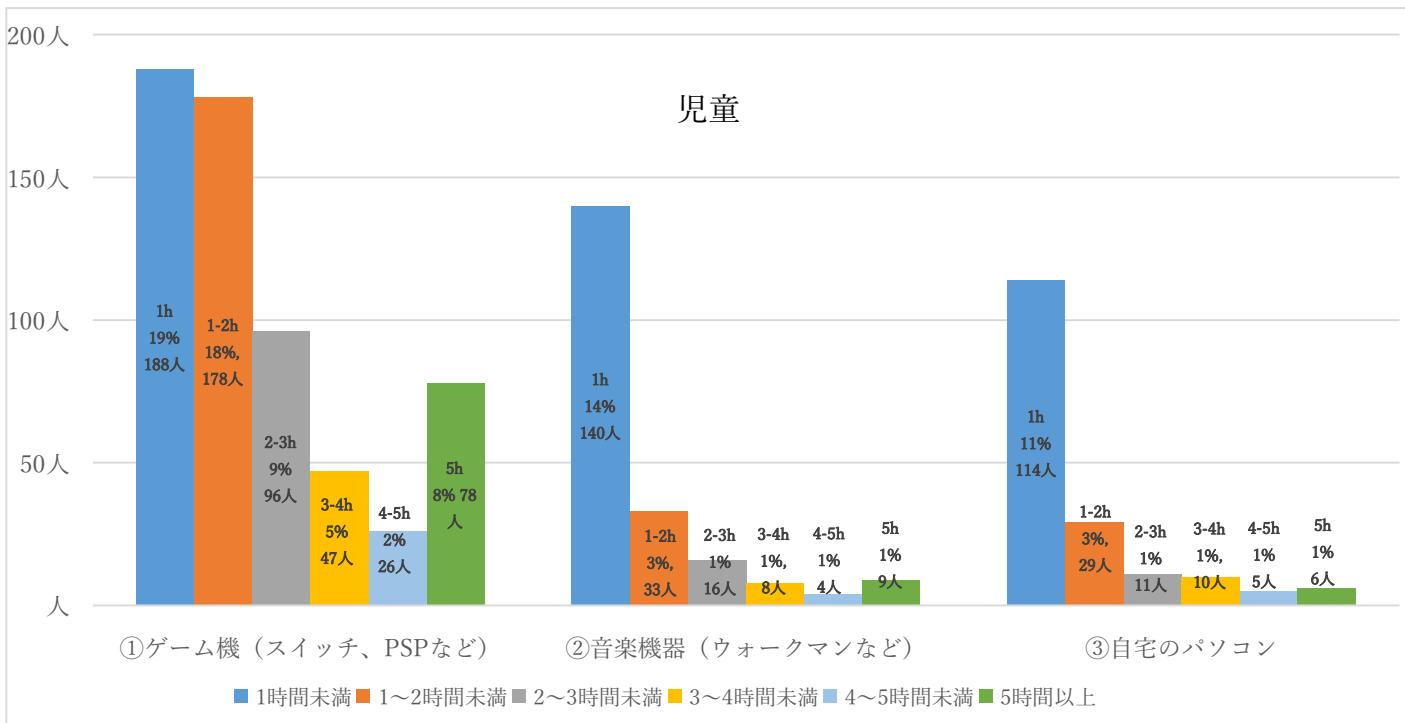


表 12-2 スマホ以外でのネット利用時間（児童）

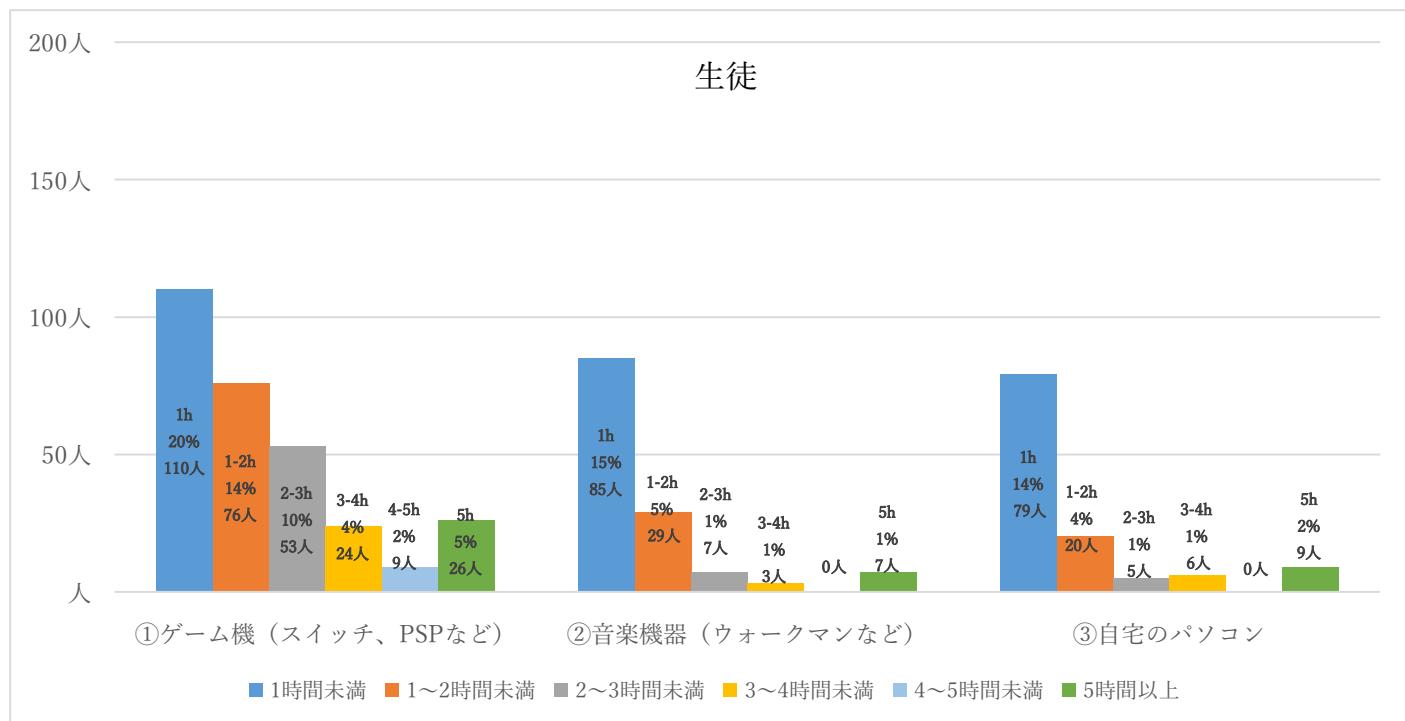


表 12-3 スマホ以外でのネット利用時間（生徒）

調査結果及び考察（児童・生徒の保護者）

(調査全回答数：児童保護者 422 件、生徒保護者 378 件)

(1) フィルタリング（アクセス制限）の設定について

(回答数：児童 359 件、生徒 449 件)

所持率と所持した時期は児童生徒を参照。

(2) スマホ等を持たせた理由（記述）

(回答数：児童 220 件、生徒 288 件)

児童の保護者では、「1人で留守番することがあるため」、「家に固定電話がないため、連絡手段」、「習い事の送迎のため」、「ゲーム・YouTube 等視聴」、「オンライン学習のため」、「親・兄弟のおさがり」などの回答があり、前回同様、「親子の連絡手段として」という回答が最も多かった。

生徒の保護者では、「連絡用」、「家に固定電話がない」、「送迎のため（部活や塾・習い事）」、「外出時の連絡手段」などの回答があり、前回と比較して、「周りが持ち始めたから」という回答が増加した。

(3) フィルタリング（アクセス制限）の設定について

(回答数：児童 359 件、生徒 449 件)

フィルタリングの設定については、児童・生徒の保護者の約 20 %が「設定をしていない」と回答した。理由としては、児童の保護者は、「やり方がわからない」、「Wi-Fi 環境のみでの使用のため」、「親のアカウントのため」と答えていた。

生徒の保護者は、「ゲームができなくなるため」、「設定したが不便なため」のほかに「特に理由はないが設定していない」、「信用しているから」という回答であった。

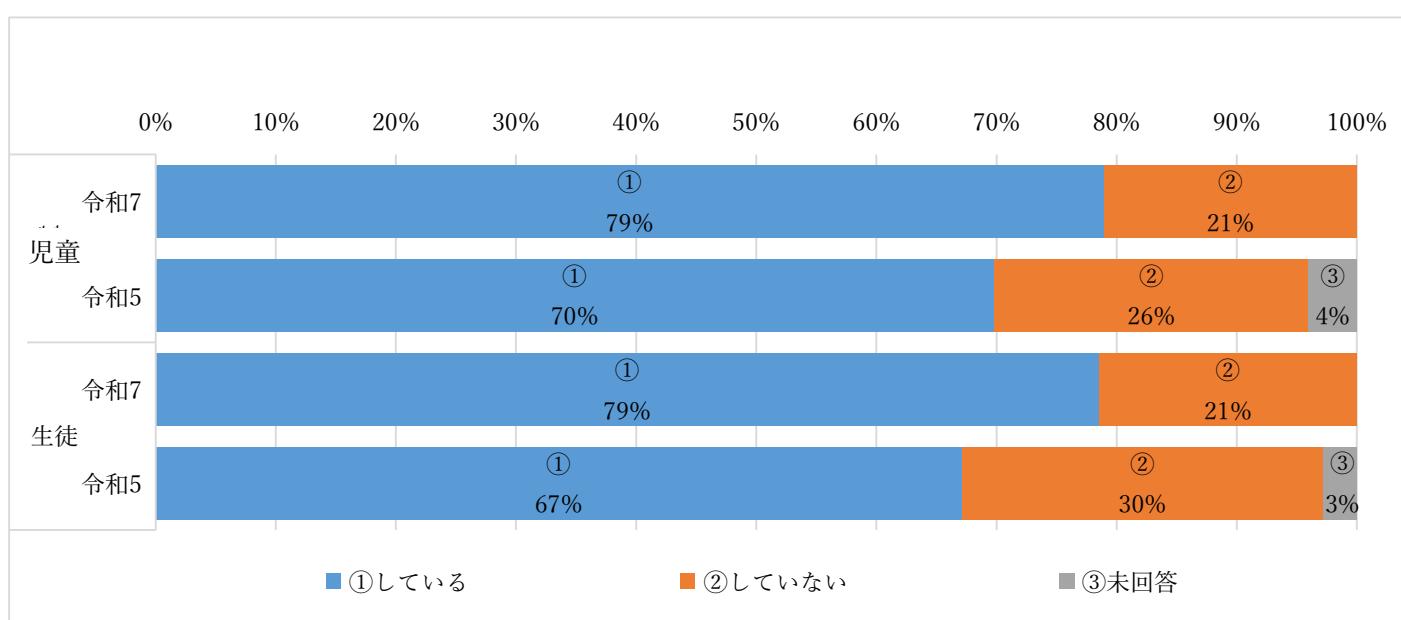


表13 フィルタリングについての有無（児童・生徒）

(4) スマホ等の利用内容

(回答数：児童 228 件、生徒 326 件)

児童・生徒の保護者と子どもたちとの回答は一致しており、家庭での子どもたちの利用内容が把握されていると評価できる。

一方、「⑬何に使用しているかわからない」という回答が児童・生徒の保護者から 1 名ずつあったことから、保護者に向けた注意喚起の周知徹底に引き続き取り組んでいく。

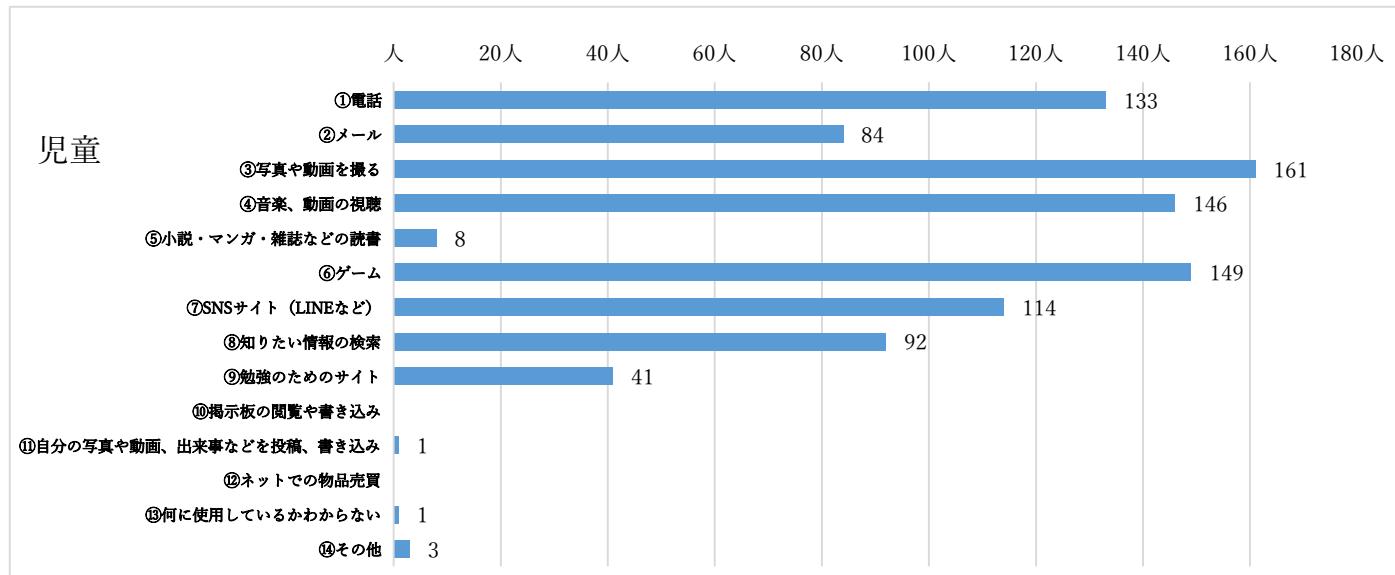


表 14-1 スマホ等の利用内容（児童）

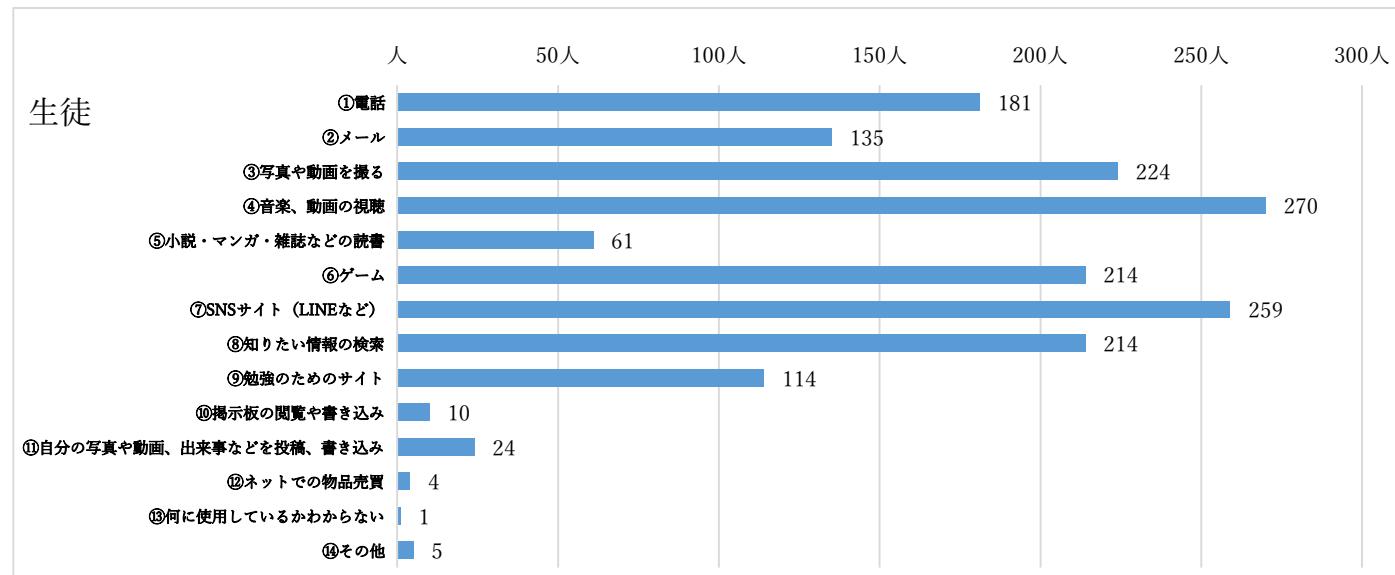


表 14-2 スマホ等の利用内容（生徒）

(5) 平日と休みの日のスマホ等の使用時間

(回答数：児童 228 件、生徒 326 件)

保護者が把握している使用時間は、児童では平日では 1 時間から 3 時間未満が多く、休日になると 4 時間未満が多い。生徒は、平日では 1 時間から 3 時間未満が多く、休日になると 5 時間未満が多い。

児童・生徒の保護者とともに、休日の使用時間「⑦その他」では、多いときには 8 時間以上という回答があった。

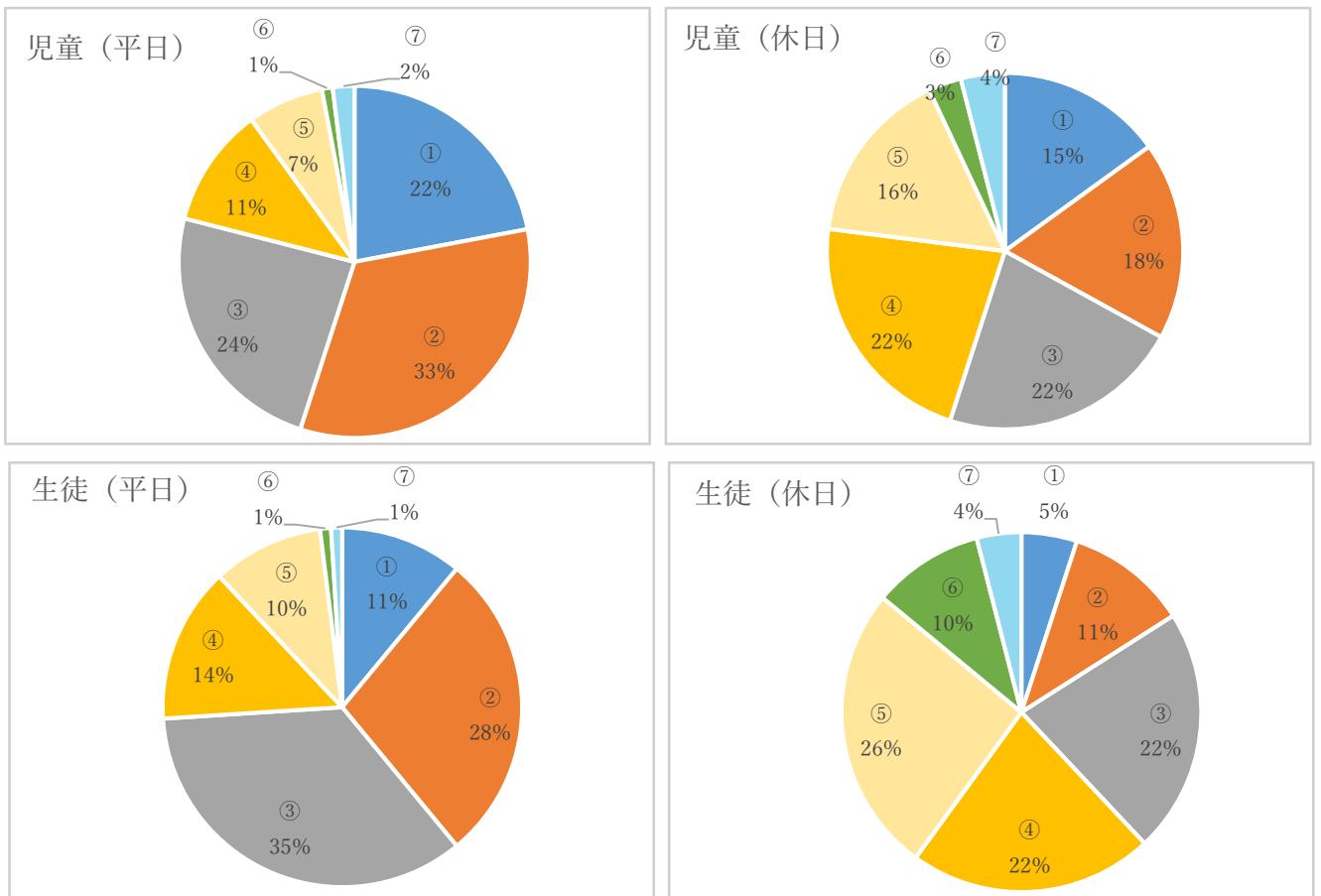


表15 保護者が把握している子どもの平日と休日のスマートフォン等の使用時間（児童・生徒）

①1時間未満 ②1時間～2時間未満 ③2時間～3時間未満 ④3時間～4時間未満 ⑤4時間～5時間未満
⑥5時間以上 ⑦その他

(6) 家庭内ルールの有無と内容や確認方法

(回答数 児童 200/228 件、生徒 277/324 件)

児童の保護者の回答は「利用時間」、「利用する場所（家族のいる部屋など）」や、「連絡先の制限（家族限定など）」、「SNS の禁止」が多いほか、「宿題等（やるべき事）を最優先する」などの回答だった。生徒の保護者では「写真や動画を送らない」、「SNS での顔出し禁止」や「SNS の投稿禁止」などの回答だった。

確認方法として児童・生徒の保護者ともに「スクリーンタイムやペアレンタルコントロール、ファミリーリンクによる確認」や、「使用時に目視」、「料金明細・通信履歴の確認」、「本人に直接聞く・本人と一緒に見る」「定期的なスマートフォンチェック」という回答だった。

(7) 家庭内ルールを守っているか

(回答数 児童 200/228 件、生徒 273/277 件)

児童・生徒の保護者ともに、90%が守れていると回答している。

(8) スマートフォン等でのトラブルの内容

(複数回答：トラブル有 児童 55/243 件、生徒 149/360 件)

保護者が子どものスマートフォン等によるトラブルを認識している件数は、子どもの実態と比較して、若干少ないが、子どものトラブルの内容と保護者の認識しているものは一致していた。

「その他」の回答では、「知らない番号から電話がかかってきた」や「アカウントの乗っ取り」、「グループLINE」に関するトラブルなどが見受けられた。

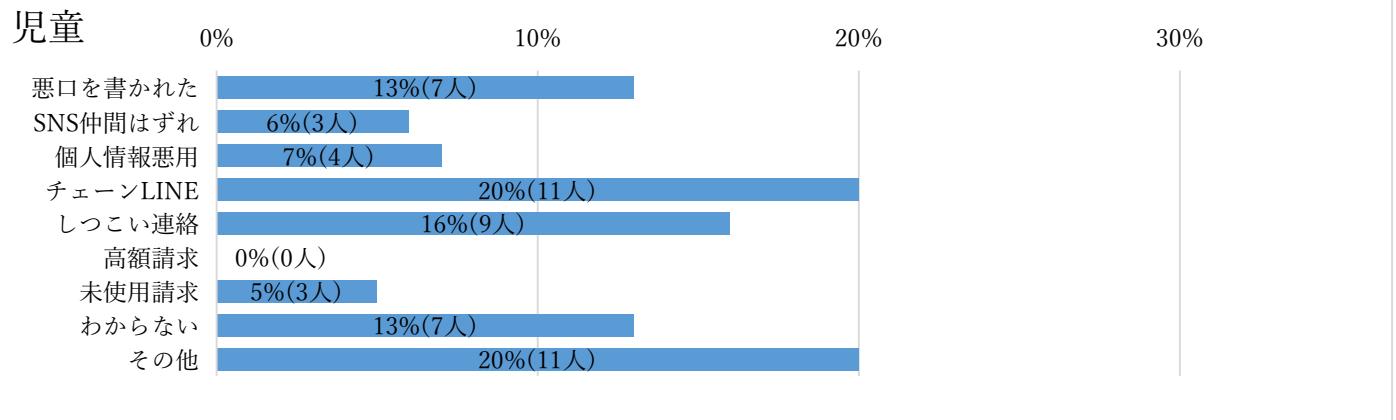


表 16-1 スマホ等でのトラブル内容（児童）

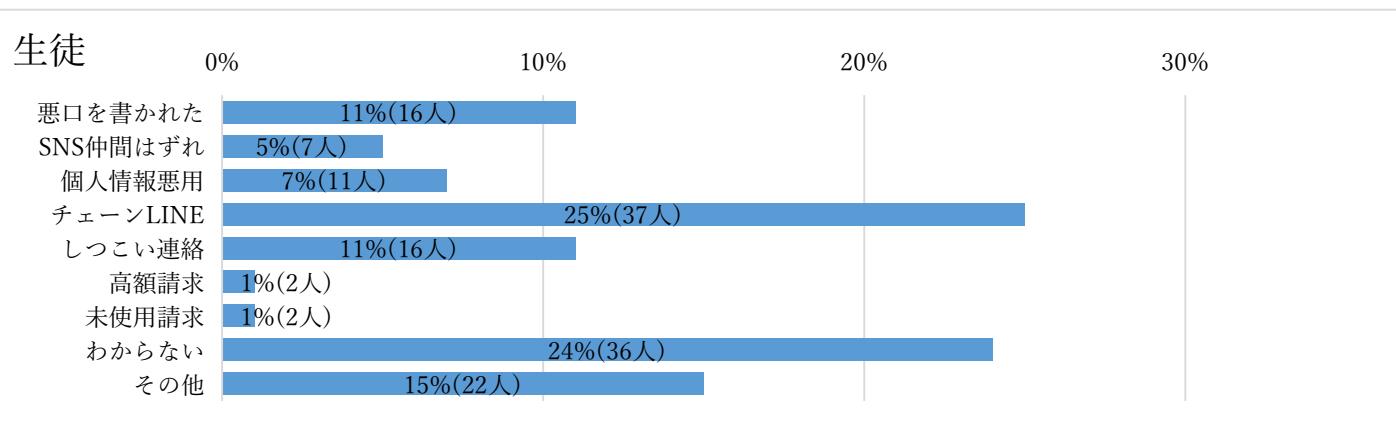


表 16-2 スマホ等でのトラブル内容（生徒）

(9) スマホ等を持たせていない保護者の「持たせない理由」(複数回答) (回答数 児童 194 件、生徒 52 件)

児童・生徒の保護者の約 20 %は「①持たせる必要性がない」と回答している。その他の理由としては、児童の保護者回答では、「②メールやサイトでのいじめやトラブルの危険性がある」、「④犯罪に巻き込まれる可能性がある」が上位となっている。生徒の保護者回答では、「②トラブルの危険性」、「④犯罪に巻き込まれる可能性がある」、「⑤生活リズムが崩れる」や「⑥勉強の妨げになる」などとなっている。また、スマホ等を家庭内で個々に利用することで「家族との会話が少なくなる」と危惧する回答のほか、「その他」として「危険性を理解していないから」や「依存しそうだから」という回答があった。

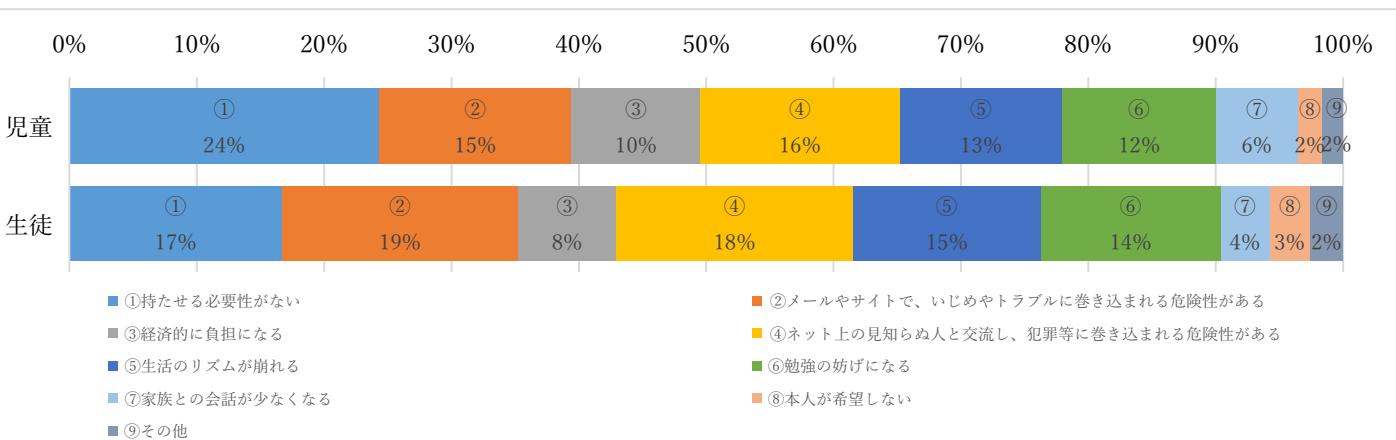


表 17 スマホ等を持たせていない理由（児童・生徒）

(10) スマホ等を持たせていない保護者の「持たせようと考えている時期」 (回答数：児童 194 件、生徒 52 件)

児童の保護者では、「②中学校入学を機に」が多く、次いで「③中学校在学中」となっている。前回の調査では「③中学在学中」より「④中学校卒業又は、高校入学を機に」が多かったことから、児童の保護者では持たせようと考えてる時期が早まっていることがうかがえる。生徒の保護者では、「④中学校卒業又は、高校の入学の時期」となっていて、こちらは前回の調査と変わりない結果となった。

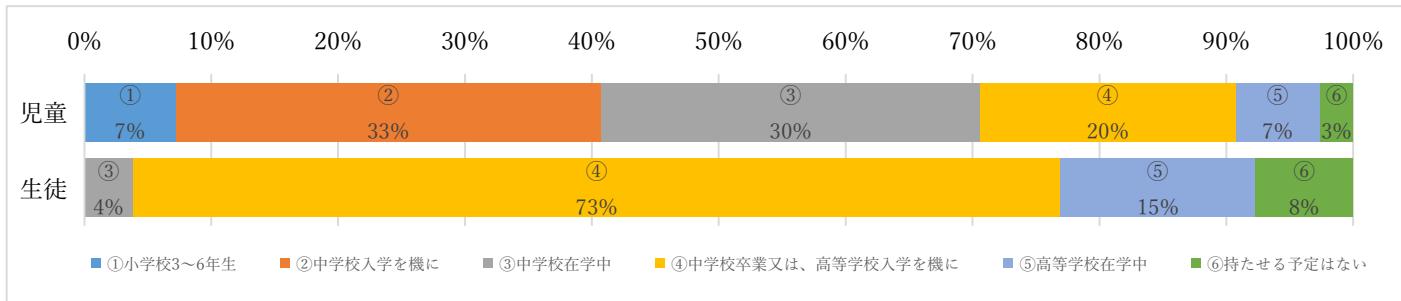


表 18 スマホ等を持たせていない保護者の持たせようと考えている時期（児童・生徒）

(11) スマホやインターネットの危険性の情報入手方法（複数回答） (回答数：児童 422 件、生徒 378 件)

児童・生徒の保護者ともに「①学校の保護者会やPTAの会合等で説明を受けた」と「②学校だよりや学校からの配布資料で知った」という回答を合わせると50%以上を占めることから、学校からの配布資料や保護者会での説明が有効な情報入手方法と考える。

「⑧その他」として、「自分の体験談」、「インターネット・SNSによる情報収集」や「消費者センターで説明を受けた」などの回答があった。

一方、「⑦特に教えてもらったり学んだことはない」という回答が児童の保護者では6%、生徒の保護者では2%あったことから、児童・生徒同様、保護者に向けたスマホ等の正しい関わり方について、さらなる周知徹底が必要と考える。

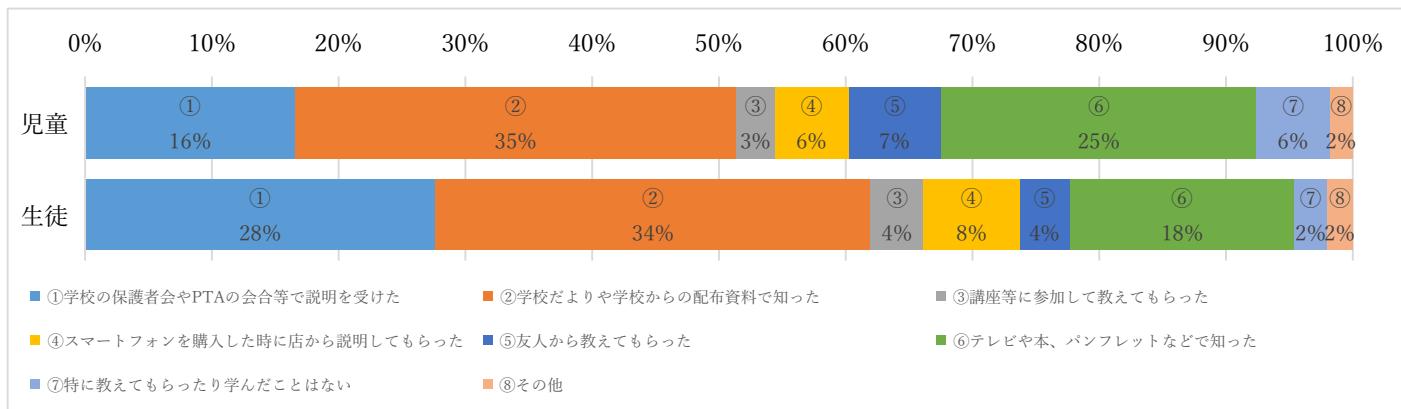


表 19 スマホやインターネットの危険性の情報入手方法

(12) スマホやインターネットの利用で心配していること (回答数：児童 235 件、生徒 212 件)

児童・生徒の保護者ともに、インターネットやSNSの利用にあたり、犯罪やいじめに巻き込まれるリスク、見知らぬ人との交流や個人情報の漏えいといった安全面に対する不安が多かった。さらに、ネット上の情報を過信してしまう傾向を懸念する回答もあった。また「スマホ等を持っていないことで、いじめられるのではないか」という、機器の有無がいじめにつながるのではないかと懸念する声や「年齢が上がるとともに、プライバシーも考慮するため、チェックが難しくなる」という悩みも寄せられた。

○調査結果のまとめ

- 今回の調査は、前回調査（令和5年度）と比較して、回答内容や数値に大きな変化はみられませんでした。ただし、小学校入学前から専用のスマートフォンを所持している児童・生徒がいることや、小学3年生～4年生頃から専用端末を持ち始めるなど、スマホ等を取り巻く環境が低年齢化していることがわかりました。
- スマホ等を所持している児童・生徒は、家庭で定められたルール（利用時間や場所、個人情報の扱い等）を守りながら、SNSや動画、ゲームといったコンテンツに多くの魅力を感じており、飽きずに利用している実態がわかりました。

また、気分が落ち込んだときに励ましや共感を得られる場であるとともに、現実の困難から一時的に距離を置ける場でもあり、スマホ等の利用が、心の支えや落ち着きを取り戻す役割を果たしていることもわかりました。
- 保護者側では、学習の補助や友人とのつながりといった利点を理解する一方で、好ましくない交友関係の拡大や依存、オンラインゲームのチャット等を通じた不適切な誘い、個人情報の扱い等への不安などが、共通してあげていました。

また、スマホの世界が子どもの居場所になってしまうのではないか、持っていない子がいじめの対象になるのではないかという懸念や、親自身のデジタル操作や理解が不十分で子どもの行動を把握しれないといった不安も寄せられました。

こうした保護者の不安に対応するために、社会教育・学校・家庭が連携をはかり、取り組みを進めることが重要と考えます。
- インターネット上でトラブルにあったときに「誰にも相談しない」と回答する児童・生徒が少なからずいることは、大きな課題として受け止めなければなりません。

インターネット上のトラブルは、子どもだけでは解決できないことが多く、場合によっては命に関わる重大な問題になる危険性があります。何かあったときにすぐ相談できる・相談を受ける環境づくりを進めていきます。
- インターネットは現代の生活から切り離せないものであり、SNSはますます進化していきます。しかしながら、チャットやダイレクトメッセージを通じ、顔の見えない悪意ある者と出会った結果、事件・事故に巻き込まれる事案が増えています。また余暇や手持ち無沙汰な時間に何をして過ごして良いかわからない子どもが増え、その時間をインターネットやSNS、オンラインゲームで過ごす傾向が強まっていることが懸念されます。

子どもたちの健全な身体と心の成長と、安心して情報社会を生きるため、引き続き、児童・生徒及び保護者に対するスマホ等の正しい付き合い方について、普及啓発に取り組みます。